

高木貞治先生(1875-1960)のお名前を冠した「高木レクチャー」は、2006年に日本数学会の企画として創設され、その第1回は、晩秋の京都で行われました。

今回の特集では「高木レクチャー」の目指すものとアイデア、創設の経緯、第1回の高木レクチャーの様子などをご紹介します。

「高木レクチャー」は、世界的に卓越した数学者を講演者として招聘し、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、新たな数学の発展に寄与することを目指した企画です。

毎年2回、新緑の季節と錦秋の季節に開催される予定の「高木レクチャー」はまた、わが国で継続して発行され続けている数学学術誌として最古のものである **Japanese Journal of Mathematics(JJM)**が、将来にわたって国際的にきわめて高い水準の研究総説を発信し続けるシステムの一翼も担っています。「高木レクチャー」はこのようなアイデアにもとづいて立案され、高木貞治先生のご遺族の了承を得て日本数学会評議員会で設立が承認されたもので、その組織委員会は **JJM** の新編集委員である小野薫・河東泰之・斎藤毅・中島啓と私によって構成されています。1990年に京都で開催された国際数学者会議(ICM90)の記念基金という貴重な資産の一部も「高木レクチャー」の活動の補助に使われています。

日本数学会では近年、この長い伝統を誇る学術誌 **JJM** の使命の見直しを行いました。建設的な提案がなされた結果、**JJM** は 2006 年春からオリジナルな研究総説を掲載する学術誌 (**JJM** 第3シリーズ) として生まれ変わることになりました。この創刊時に「日本から、オリジナルのもの、良いものを発信する」という精神のシンボルとして、葛飾北斎の名作「凱風快晴」を表紙に用い(図1)、**JJM** の文字で富士山をかたどったロゴ(図3)をデザインしました。高木貞治の名を冠した高木レクチャーもまた、「日本から、オリジナルのもの、良いものを発信する」精神を象徴する意味で命名されています。高木レクチャーでは、各講演者が数十ページの原稿を準備し、それを綴じた冊子(図2)が講演の初日に配られます。そして講演の後、その原稿は、聴衆のフィードバックを受けて加筆修正され、専門家による査読を経た後 **Springer** 社から **JJM** の研究総説として国際的に出版されるシステムになっています。

定期的に行われる数学の講演会で世界的に名高いものには、フランスのブルバキ・セミナー、イスラエルのサクレ・レクチャー、プリンストン高等研究所のヘルマン・ワイルセミナーなどがあります。いずれの講演会も、そこに講演者として招待されること自体が、講演者に誇りと榮譽を感じさせるような権威ある催しですが、日本発信の高木レクチャー

もまた、そのような講演会の1つとして世界に貢献することを願っています。

第1回高木レクチャーは、秋の美しい京都で日本数学会と京都大学数理解析研究所の共催で行われました。最先端の数学者たちが多忙を極める中でも貴重な時間をさいて連続講演の準備に真剣に取り組み、来日して下さったわけですが、聴衆の熱気と講演中・講演後の真摯な議論によって、さらに素晴らしいものが新たに生まれ育つきっかけになったのではないかと思います。記念すべき第1回の講演者である、ブロック（シカゴ大学教授）、リオンス（コレージュ・ド・フランス教授、1994年フィールズ賞受賞）、スメイル（豊田工大シカゴ校教授・シカゴ大学教授、1966年フィールズ賞受賞）、ヴォアザン（CNRS教授）の4名については、斎藤毅・石井仁司・宍倉光広・中島啓の各氏による紹介をお読みください。また、高木貞治先生が日本の現代数学の父として、どのようなお仕事をされてこられたかについては三宅克哉氏による紹介をご覧ください。

第1回の高木レクチャーを振り返ると、講演の前日に私と一緒に大文字山に登って京都の町並みの展望を楽しんだ70歳のスメイル、鉄道事故で飛行機に乗り遅れてしまったけれど次の便の切符を即断で買って駆けつけてくれたヴォアザン、多忙のため講演の当日に空港に着いた足でそのまま会場に来てくれたリオンス、加藤和也さんや斎藤毅さんともいつも和やかな雰囲気を出していたブロック、と講演者たちの人柄を身近に感じる事ができたことも、印象深い思い出となりました。

2007年春に出版されたJJM第2巻第1号では「伊藤清氏第1回ガウス賞受賞特集」と同時掲載で「第1回高木レクチャー特集」を組み、ブロック、スメイル、リオンスの研究総説3本を掲載しています。ヴォアザンの研究総説は2007年の秋の号に掲載予定です。また戸瀬信之氏らのご尽力で第1回高木レクチャー講演のビデオも撮影され、東大数理 Video Archives Project チームによる編集を経て公開がはじまりました（JJMのウェブサイト <http://www.math.or.jp/JJM/>よりリンクされています）。

第2回高木レクチャーは今年、新緑の東京で開催が予定されています（5月26日（土）～27日（日）、東京大学にて）。

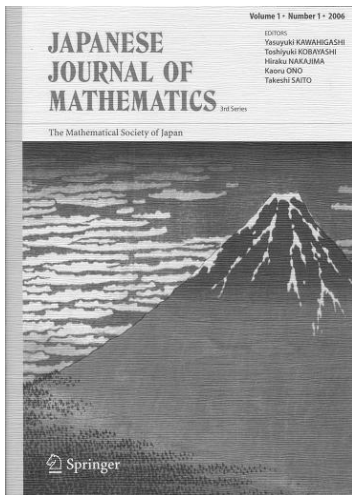


図 1

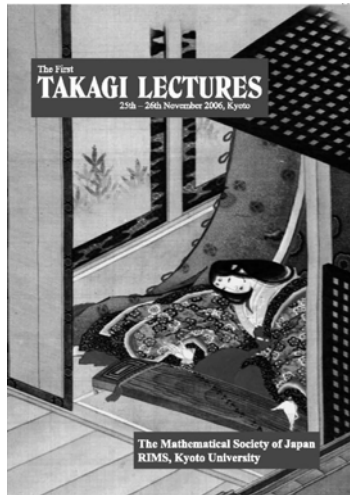


図 2



図 3